

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



中咽頭がん 発覚編 027：治るけん、治療するとよ。

2017年4月20日（木）

入院前日の夜、トモが仕事で遅かったため、晩御飯はトキとウタの二人きりでした。

トキは自分の病気が『がん』であると、ウタに話すかどうか迷っていました。

甲状腺の時は『のど』に『できもの』ができたからと、ぼんやりとさせてきましたが、明日から2か月以上も『がんセンター』に入院するのです。それを何と説明すればよいのでしょうか。ウタは、もう中学2年生です。14歳です。がんに対してどの程度の知識を持ち、どんなイメージを抱いているのでしょうか。トキは上手く嘘はつけないと思いました。トキはウタに話す覚悟を決めました。それは、

お父さんは死なないから大丈夫と信じてほしかったからです。



温かいからでしょうか、
落ち着くからでしょうか、
ウタは小学生の時まで、
よく、トキの膝の上に自分から座っていました。
そこで、トキは、ご飯を食べ終わった後、久しぶりに、ウタを膝の上に乗せました。

※画像はウタが幼少の頃

14歳のウタは「え、なんで？」と、少し驚いた様子でした。トキはウタを軽く抱きしめて言いました。
「実は明日から2か月くらい入院することになったとよ」

「なんで？」

「実は、お父さんの喉にできたのは、がんやったんよ。
手術は終わったけど、まだ薬とかで治療せないかんらしい。
でも治るけん、治療するとよ。
治らんなら、治療もせんし、入院もせんけん。」

「…やろ？ 治るけん、治療するとよ」

甲状腺だの中咽頭だの、そんなことではなく、ただただ、『がんやけど、治る』と、気が付けば、トキは同じことを何度も何度も繰り返し言っていました。

ウタは、『もう、わかったよ』と言わんばかりに飽き飽きした感じで、

「うん、わかった」と答えました。

トキのしつこさに嫌気が刺した、ウタの様子に、トキは、逆に深刻にならずに済んだと安心していました。
明日から、2回目の入院です。ウタのためにも絶対に負けられない闘いが始まるのです。

⇒ 028 : えっ、ステージ4？ 余命半年？